

# 『福岡市が目指すべき姿』

## 1. 生物多様性ふくおか戦略の理念

遥かにつながる玄界灘、筑紫野の流れるいく筋もの清流、立花山の山懐、仰ぎみる脊振の峰。

過去二千年にわたってそこに人々が生きてきた足跡を残すまち。

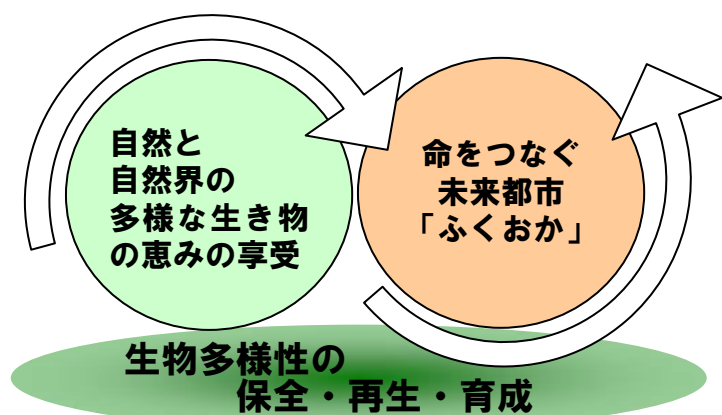
人々の営みは、生物多様性の恩恵に支えられ、まちは発展をとげてきました。

これから百年も変わることなく生物の多様性を継承し、その恩恵を享受しながら、人々が生き、まちが成長していける福岡市を目指すことを本戦略の理念とします。

## 2. 生物多様性ふくおか戦略の目標(100年後の将来像)

### (1)全体目標

市民が自然と自然界の多様な生き物の保全・再生・育成に取り組み、百年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市「ふくおか」



### (2)地域別目標

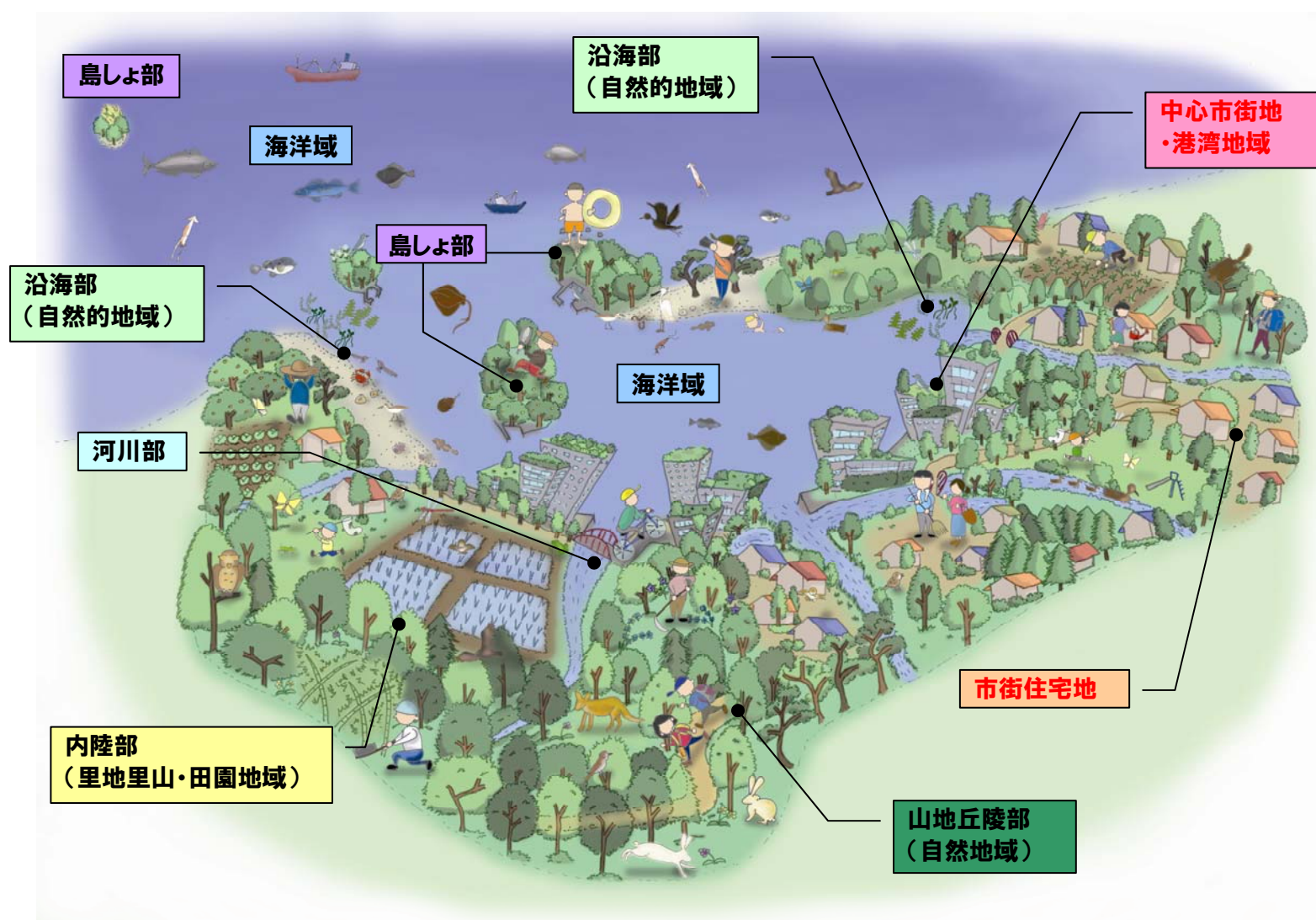
福岡市の生物多様性は、地形・地質などの自然的な基盤と、その上に積み重ねられてきた人々の営みによって形づくられてきました。

そうした生物多様性の観点から市域を以下のように8つに区分します。

なお、区分にあたっては、「生物多様性国家戦略 2010」の国土の特性区分、「福岡市環境配慮指針」のゾーン区分との整合性にも配慮しています。

《地域特性区分》

- ①海洋域
- ②島しょ部
- ③沿海部（自然的地域）
- ④中心市街地・港湾地域
- ⑤市街住宅地
- ⑥内陸部（里地里山・田園地域）
- ⑦山地丘陵部（自然地域）
- ⑧河川部



## ①海洋域

博多湾及びその外側に広がる筑前海などの外洋域です。

### 〈現状〉

博多湾は、水質、底質ともに改善傾向にありますが、港湾開発にともなう漁業権の消失、かつて福岡市の主幹漁業であった海苔養殖なども含めた沿岸漁業の生産量は大きく減少しています。

外洋域については、人為的な影響を受けにくい海域であり、日本近海においては、これまでは大きな変化はなかったものと考えられます。

しかし、**東シナ海**では現在もガス田開発などが進行中であり、今後は、海底資源の開発などによる影響が生じる可能性が考えられます。また、国際港の位置する福岡市では、船舶の航行も盛んであり、船舶の事故による油汚染などが生じる可能性も考えられます。

また、この地域は、福岡市の漁業生産量の60%を占める沖合漁業を支えています。福岡近海における資源量は減少傾向にある上、特に、諸外国での魚介類の需要の増加が見込まれており、資源の過剰利用の状態は継続するものと推測されます。

また、温暖化の影響による海流の変化が、漁業に影響を及ぼす可能性があります。

### 〈目標とする姿〉

美しい博多湾に育まれた、質の高い姪浜産のりや玄界島天然生わかめなどが市内はもとより、全国から人気を集めています。

韓国や中国、さらには太平洋諸国などの関係国が常に話し合いの場を設け、連携を図ることで、各国の海を回遊する魚類などの生息の場を守り、乱獲などから海洋資源を守るための国際ルールを決めて、全ての国の食卓に、将来にわたって美味しい魚介類がのぼるように注意が払われています。

また、海の生き物の生息環境を脅かす海洋汚染や地球温暖化が、世界中の国々の積極的な取り組みによって最小限に抑えられています。

そのため、近海もののイカなど、豊かな水産資源の恩恵に預かり、福岡市の魅力の1つである豊かな食文化を守っています。

#### 【解説】

- ・博多湾の水質・底質は良好に保たれ、新鮮で質の高い藻類を含めた湾内の漁業生産品が市内外で流通している
- ・韓国や中国、さらには太平洋諸国などの関係国との連携により、長距離の移動・回遊をする魚類などの生息環境が改善の改善が進んでいる
- ・水産資源などの現存量が科学的・客観的に把握されるとともに、それらのデータを基に、漁獲量をはじめとする国際法などに則った持続可能な漁業が行われ、各国の水産資源が適正に確保されている
- ・生態系に影響を与える有害物質等の流出による海洋汚染の防止・除去などが進むほか、各国が地球温暖化防止の取り組みを積極的に行うことで、海洋生物への影響が最小限に抑えられ、沖合漁業が福岡市の漁業生産量の中核を担っている

## ②島しょ部

能古島、玄界島、小呂島、さらには陸繋島の志賀島など沿岸域・海洋域にある島々（陸域）です。

### 〈現状〉

島しょ地域には、岩礁や砂浜など多くの自然海岸が残されています。

**定住島は、北西の季節風の影響が少ない南西斜面を中心に山頂近くまで段々畑が広がるなど、土地利用がなされていたものの、近年は多くの島で中腹以上の農耕地は放棄され、二次林として森林が回復している一方、強い季節風に晒される北西側斜面は、自然林としてそのまま保全されているところが多い状況です。**

また、島という孤立した立地環境から、植物や昆虫類をはじめとして多くの絶滅危惧種が見られるほか、小呂島のハチジョウススキ群落や玄界島のハマオモト群落など、貴重な植物群落が見られます。

また、**小呂のおくんち**などの独自の伝統行事や風俗、文化も残されています。

### 〈目標とする姿〉

能古島、玄界島、小呂島、志賀島など大小さまざまな島々が、福岡市の生き物や文化の多様性を守っています。

それらの島々には、岩礁や砂浜など自然のままの海岸が残され、ハチジョウススキ群落やハマオモト群落など、そこでしか見られない貴重な植物を見ることができます。

また、能古島や志賀島などでは、島の若者達によって伝統行事が継承されています。

このような、素晴らしい自然の風景美や珍しい生き物、島ならではの文化が多くの人々をひきつけ、過剰な利用を抑えたエコツアーなどが人気を集め、多くの人たち島の人たちと交流し、貴重な生き物や固有の文化などの保全に一役買っています。

#### 【解説】

- ・能古島、玄界島、小呂島、志賀島などの島しょ部には、岩礁や砂浜など自然海岸が残され、多種多様な生き物が生息・生育しています。
- ・小呂島のハチジョウススキ群落や玄界島のハマオモト群落などでは、海洋島の特性から、高い固有性を持つ生物相を有している。
- ・能古島や志賀島などでは、島に伝わる祭事が、島の人々によって継承されている
- ・優れた自然景観や希少価値の高い生き物、固有の文化を活かして、環境に配慮されたエコツアーが盛んに行われ、交流の拠点が形成されている
- ・これらの交流が、島に住む人々に島の貴重な生態系や固有の文化などの保全の重要性を再認識させ、その保全に寄与している



### ③沿海部（自然的地域）

今津干潟、和白干潟、長浜海岸、海の中道等の砂浜などの陸域と汽水域などエコトーン（推移帯）を含む地域です。

#### ＜現状＞

博多湾内の沿岸部の埋め立てが進んだ結果、干潟や砂浜などが減少し、沿岸域の多様性は減少しています。しかし、海岸・海域の開発が行われているのは、ほとんどが博多湾内であり、外海に面する海岸・海域には、自然海岸が多く残されています。

また、高度経済成長期に顕著であった水質・底質汚染の影響で、閉鎖性の高い博多湾内では、ヘドロの堆積などが問題となっているほか、国内外で人間活動によって海に排出されるプラスチックごみ等の漂着ごみによる、海岸環境の悪化なども問題となっています。

その一方で、河口域を中心に干潟が分布しており、鳥類の渡りの中継地・越冬地としての機能も果たしています。また、NPOなどが干潟や海岸の環境を保全するために様々な取り組みを行っています。

また、海の中道には、多くのレクリエーション施設が集積しており、自然体験などの環境学習が盛んに行われているほか、玄海国定公園に指定されている玄界灘沿岸などは、海岸景勝地として魅力的な観光スポットともなっています。

#### ＜目標とする姿＞

市民、事業者、NPOなど多くの人の手によって自然の海岸が守られ、貝類やカニ類をはじめとした多様な海生生物や天然記念物のカブトガニなどを観察しに多くの人々が訪れています。

また、行政や市民団体などが、国内外の鳥類の中継地や越冬地と連携しながら、鳥類とその生息環境を守る活動を積極的に展開し、国内有数の渡りの中継地・越冬地となっており、多くのバードウォッチャーの目を楽しませています。

ヘドロの浚渫や流域一体で水質改善に取り組むことで、豊富な魚介類が水揚げされ、各国との協力によりごみのないきれいな砂浜などの海岸線を再生し、市民の多くが潮干狩りや海水浴を楽しみ、多くの観光客が美しい自然の海岸線に魅了されています。

#### 【解説】

- ・多様な主体の協働により、干潟や藻場を始めとした沿岸生態系が保全され、多様な海生生物が生息しているほか、天然記念物のカブトガニなどの生息も確認されている
- ・国内有数の鳥類の渡りの中継地・越冬地となっており、国内外の中継地や越冬地と連携して、鳥類の保護にも積極的に取り組んでいる
- ・ヘドロの堆積や水質の悪化、さらには砂浜などへの漂流ごみなどの問題が、多様な主体の継続した取り組みによって改善され、豊かな漁場が保全されている
- ・市民の多くが潮干狩りを楽しみ、市外からも多くの観光客が豊かな自然景観を楽しむために訪れている

### ④中心市街地・港湾地域

代々時間をかけて埋め立てられてきた市街地で、港湾施設をはじめ、レクリエーション施設や住宅、文化施設など、多様な機能が高度に集積した沿岸地域です。

#### ＜現状＞

福岡市の面積の約8%を占める埋立地を中心として市街地が形成されており、高密度な土地利用、高い環境負荷の集中によって、多様な生物が生息・生育できる自然空間は極めて少なくなっています。

都市公園や街路樹によって緑が創出されているものの、カラス類など人為的な環境にも適応できる一部の生物を除き、この地域で見られる生物は非常に限られています。

緑地が少なくアスファルトなどの人工地盤面で覆われているため、ヒートアイランド現象が発生しているほか、身近に緑地が少なく生物多様性に乏しいために、生物の多様性の大切さや自然との付き合い方を知らない市民も増えてきています。

#### ＜目標とする姿＞

人口の減少にあわせて市街地がコンパクトにまとまり、それによって生まれた空間を活かして大きな森がつくられています。

道路にも大きな街路樹が trianaり、市街地を流れる河川に沿って幅の広い緑の帯が形成され、ビルの屋上や壁面も豊かに緑化され、大都市とは思えないほど野鳥のさえずりが身近に聴こえます。

また、こうした緑は、都市に新鮮な冷気を送り込み、風格漂う街並みを形成するとともに、都市生活に潤いを与えています。

さらに、まちのそこそこにビオトープがつけられ、大人から子どもまで地域の人たちが協力して手入れをしています。そうした活動を通して、大人と子どもが、生物の多様性の大切さや自然との付き合い方などを一緒に学んでいます。

#### 【解説】

- ・2020年代に人口のピークを迎えたのを契機に市街地がコンパクトに集積され、低未利用地には、まとまった緑地が造成されている
- ・自動車の減少や公共交通機関の発達などによって余裕のできた道路には、厚みのある街路樹が育ち、市街地を流れる河川沿いにも緑地が連続して形成され、ビルの屋上や壁面は緑化されている
- ・これにより生態系ネットワークが形成され、野鳥など多くの生物を見ることができる
- ・こうした緑が「風の道」として機能するとともに、風格と潤いのある都市景観を形成している
- ・都市住民や子どもたちが身近に生き物とふれあうことが出来るビオトープが市街地のあちこちに整備され、地域住民や子どもたちが、そうした場所の維持管理を自ら行うことで、生物の多様性の大切さや自然との付き合い方などを学んでいる

## ⑤市街住宅地

小高い丘陵が散在する中に、面的に市街地、住宅地が広がり、わずかに樹林地が点在する地域です。

### 〈現状〉

1960年以降に順次、田畑や樹林から住宅地などの都市的な土地利用に転換されていった地域で、都市公園や街路樹によって緑が創出されているものの、緑が大きく減少しています。

また、敷地の細分化などによって、敷地に残された貴重な緑の減少も見られます。

一方、在来種でない緑化植物等の利用によって外来種がはびこる状況もみられます。

こうした内陸部での市街地化は、身近な生物の生育・生息空間を減少させるだけでなく、まとまっていた自然的環境を分断し、生息に広い面積を必要とする生物や複数の環境を行き来する生物を減少させており、かつて市街地でも見られた身近な生き物が姿を消しています。

### 〈目標とする姿〉

丘陵や崖線、河川沿いに緑地が帯状につながり、多くの生き物が往来しています。

また、そうした緑地が風の通り道になって、市街地に新鮮な冷気を運んでくれています。

市街地には、比較的大きな社寺林や鎮守の森、屋敷林が残され、ムササビが巣を造り、フクロウの鳴き声が聞こえてきます。

家々には緑が植えられ、チョウが舞い込み、鳥が羽を休めています。

また、先人が創り、また残こしてきた社寺林や鎮守の森、さらには公園の緑を地域の大人たちが協力して手入れをしており、その傍らで、子どもたちが土の上を飛び回っています。

#### 【解説】

- ・丘陵地や段丘崖沿いの緑地、河川等を軸として、都市内で樹林地や水辺地が保全、再生され、生態系ネットワークやコリドー、風の道などが形成されている
- ・緑地保全や都市計画などの諸制度によって、大きな社寺林や鎮守の森、屋敷林、宅地の緑などが保全され、身近な生き物の生息生育空間が保全・再生されている
- ・雨水浸透の工夫がまちづくりの中で様々に行われ、健全な水循環が確保されている
- ・都市に居住する子どもたちが土に親しむ場が確保されている
- ・かつて人工的に創り出され、人の手によって維持されてきた大濠公園、福岡市動植物園、西公園、南公園、さらには護国神社などの緑は、市街地に残された貴重な緑となっており、地域住民が積極的に維持管理を行うことで地域コミュニティも強化されている

## ⑥内陸部（里地里山・田園地域）

市街地に囲まれた鴻巣山、野多目池などのため池、室見川沿いの農地など、住宅地、農地、小規模な樹林地などが混在する、山地丘陵部の自然地域と沿岸部の都市的地域の中間的な地域です。

### 〈現状〉

かつて薪炭林や用材林として活用されていたアカマツ林などの二次林が、各地の山麓、丘陵部で普通に見られましたが、アカマツの用途がなくなり、手入れもされなくなった現在、潜在植生である照葉樹林へと遷移していき衰退して、ほとんど姿を消しています。

また、農業所得の低迷による第一次産業の衰退、農家の高齢化と後継者の不足などを背景として農地の宅地化が進み、水田環境などが著しく減少しています。

里地里山として人に利用されることで、草地や明るい林、水田やため池などの多様な植生を維持していたこうした環境が減少したことで、移動能力が低く特定の環境に依存している植物や昆虫類なども減少しています。

その一方で、鴻巣山などでは、多くの人と楽しみを分かち合いながら、これからの里山文化を創造しようとする取り組みも、市民団体などによって進められています。

### 〈目標とする姿〉

市街地近郊の里山の一部では、市民、事業者、NPOなどさまざまな方々の協力で手入れされた二次林では、キキョウやリンドウなどの植物や、かつて姿を消したチョウ類などの姿もみられます。

また、かつて林業従事者の高齢化に伴う山の荒廃が懸念された飯盛山や叶岳では、市民、事業者、NPOと行政の協働によって、見晴らしの良い野鳥の宝庫となっています。

そうした明るく親しみやすい森林では、子供たちの冒険の場、大人の自然観察の場、生物の多様性の大切さを学ぶ場などとなり、多くの人々が楽しみを分かち合い、新しい里山文化が形成されています。

福岡市産の農産物がアジアをはじめとする各地に出荷され、安定的な農業が行われ、環境保全型農業の採用によって、さまざまな生き物が田んぼや畑に見られます。

また、子どもから大人まで、里地里山の大切さを十分に理解し、自ら保全に取り組み、このふるさととして引き継がれています。

#### 【解説】

- ・多くの二次林が自然の遷移にゆだねられ、一部の二次林では、多様な主体の協力によって積極的な維持管理が行われ、明るく親しみやすい森林として保全されている
- ・飯盛山や叶岳などでは、林業従事者の高齢化に伴う山の荒廃防止や国土保全の観点から、森林空間整備事業が進められ、市民、事業者、NPOと行政の連携・協力により間伐や雑草の除去、作業道や登山道を整備が行われ、自然観察などに適した明るい森が形成されている
- ・市民のレクリエーション、里山文化や生物の多様性の大切さを学ぶ場が形成されている
- ・国内外に販路を拡大してブランド化に成功した農業により、農地の減少は鈍化し、多様な生物の生息生育環境が保たれる環境保全型農業が採用されている
- ・このような里地里山の価値が広く市民に認識され、市民、事業者、NPOなどが主体的・自発的にその保全に取り組み、市民の原風景として、里地里山が再生・創出・活用されている



## ⑦山地丘陵部（自然地域）

脊振山地、油山などを代表とするまとまりのある森林で、自然公園に指定され、金山のアカガシ純林や脊振山のブナ林などが残される比較的自然性の高い地域です。

### ＜現状＞

多くの生物の生息地となっていますが、イノシシやシカなど一部の種の個体数の増加や生息域の拡大などが問題になりつつあります。

森林面積が安定的に保全されている一方で、天然林の減少や林業の衰退などより人工林の施業や管理が十分に行き届かず、放置されている森林も増えています。

また、脊振山や油山などはレクリエーションやエコツアーを行うことができる場が充実していますが、脊振少年自然の家、油山市民の森などの利用者は減少傾向にあります。

### ＜目標とする姿＞

脊振山や金山の山頂付近の森厳なブナとシデの林から、アカガシやシイ・カシの林へ**登山ルート**を下ってくると、野生ランなどの貴重な植物や四季折々の草花が迎えてくれます。

登山道から、ノウサギやキツネの姿を発見することもあるでしょう。

そうした豊かな自然環境を保全していくために、市民、事業者、NPOなどが協力して、ボランティア活動が展開されています。

また、市街から1時間足らずのこうした山々では、多くの市民がハイキングやキャンプなどを気軽に楽しみ、子供から大人まで、さまざまな人たちが、生物の多様性について学ぶ場として活用しています。また、福岡市の街に訪れた人たちも、ちょっと足をのばしてエコツアーに参加しています。

一方で、行政やNPO団体の方々が、オーバーユースにならないように、適正な利用方法の情報を提供したり、ルールを定めたりしながら自然環境を守っています。

#### 【解説】

- ・脊振山地、油山などまとまりのある自然性の高い森林が残されている
- ・尾根沿いには**登山道があり**、アカガシやブナの天然林が残り、貴重な種が見られるほか、優れた自然景観を有している
- ・自然性の高い森林が、大型哺乳類を始めとした多様な生物の生息生育場所となっており、定期的なモニタリングなどにより、一部の種の偏った増加や外来種の侵入を監視し、適切な対応が取られている
- ・施業が行われなくなった二次林は、自然の遷移にゆだねて自然林に移行され、竹林の拡大やササ類の繁茂など天然更新が困難な一部の地域では、市民、事業者、NPOなどの協力によって適正な維持管理が行われ、自然の遷移を助けている
- ・こうした自然豊かな環境が市街地近傍に位置する福岡市らしく、多くの市民がハイキングなどの野外レクリエーションや環境学習の場として、また市外からも都市近郊型エコツアーの場として、自然環境保全とのバランスを図りながら適正に利用されている

## ⑧河川部

多々良川、那珂川、室見川など様々な地域や生息生育環境を結びつける生態系ネットワークの軸となる水系です。

### ＜現状＞

都市部を流れる河川では、都市化の進行やコンクリート護岸化、堰の建設などによる環境のつながりの分断は、複数の環境を行き来する生物にとって大きな減少要因となるなど種の多様性が低下しており、鳥類、両生類、魚類などの絶滅危惧種の多くが河川で確認されています。また、ため池や河川、さらには河川敷など日当たりの良い草地などになどでは、外来種が多く確認されており、確認種数も増加傾向にあります。

その一方で、下水道の普及によって水質は改善傾向にあり、近年では、魚道の設置など環境のつながりや生態系に配慮した環境整備が実施されるようになっていきます。

さらに、多々良川、那珂川、室見川などの河川は、生活水の供給源になっているほか、室見川のシロウオなど、地域の食文化を支える食材の供給源にもなっています。

**しかし、シロウオの生産量は、最盛期と比べると3分の1程度の状況です。**

このほか、室見川など河川へのアクセス性が良く、釣り、自然観察など多様な自然レクリエーションのフィールドとして活用されています。

### ＜目標とする姿＞

多自然川づくりによって出来た**入り江（淀み）**に、コウホネなどの浮遊植物がみられるなど、河川敷にはさまざまな生き物の生息場所が生まれています。

室見川などに設置された魚道を遡上するアユを子どもたちが観察しています。田んぼでは冬でも水路に水が流れ、多くの生き物が川と水路を行き来しています。**また、小河川や水路はかつての潤いを取り戻し、多くの野鳥や昆虫などの姿を見ることができます。**

河川では、ボランティア団体などが、外来種の駆除を行っており、最近では在来のヒナモロコ**やメダカ**なども増えてきています。

さらに、**湖沼・池は澄み**、源流部から河口部まで清らかな水が流れ、春先にはシロウオ漁が行われ、福岡市ならではの風物詩と食文化が継承されています。

浅瀬では多くの子どもたちが遊び、大人たちが川の流に糸をたらし**ています。**

#### 【解説】

- ・多自然川づくりなどの取り組みにより、陸域と水域に緩やかに移行するエコトーンが再生され、汽水域や湿地などの多様な環境に多様な生物が生息している
- ・河川・池沼・農地と河川の連続性、上流から河口の連続性が改善され、生物の移動経路が確保されている
- ・かつて、人も近寄らない排水路と化していた**小河川や水路は、河川環境整備が進み、潤いや親水性を回復し、多様な生物の生息環境を提供している**
- ・多様な主体の協力により、外来種のモニタリングや駆除が継続的に行われ、ヒナモロコ**やメダカ**などの在来種の確認数も回復してきている
- ・汚濁負荷の削減が一層進み、源流部から河口部のまで流域全体で水質が改善し、博多湾の水質改善にも寄与している
- ・合流する**大小さまざまな河川、湖沼や池といった水系全体**の健全な水循環によって良好な水環境が形成され、シロウオなどの在来種の生息数が回復し、福岡市の食文化の継承を支えている
- ・良好な河川景観がまちなみにうるおいを与え、世代を超えたレクリエーションに活用されている

### 3. 戦略の基本的方向

「第3章 福岡市における生物多様性とその利用に関する評価と課題の整理」では、福岡市の生物多様性の健全性の変化の要因分析と課題、さらには、福岡市が享受している生物多様性の恵みの変化の要因分析と課題を示しました。

また、「第4章 福岡市の生物多様性を取り巻く国内外の現状」では、生物多様性を福岡市の持続可能な“成長”につなげる上で、機会（追い風）、もしくは脅威（向かい風）になる事象を示しました。

これらを踏まえ、全体目標に示した「市民が自然と自然界の多様な生き物の保全・再生・育成に取り組み、百年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市『ふくおか』」の形成に向け、取り組みを進める際の基本スタンスを基本的方向として以下のように定めます。

#### 〈基本的方向〉

<b>基本的方向1</b> <b>生物多様性の恵みに支えられた魅力に対する認識の共有と保全・育成・活用</b>	①住みやすい都市・おもてなし都市としての魅力を支える生物多様性の重要性を市民自らが知り・守り・育み・活かす
	②「人と自然」「都市と自然」との関わり方を市民が理解し、経済・社会・環境の調和する生物多様性に配慮したまちづくりを推進する
	③安全なまちを支える生物多様性の恵みの重要性を市民が理解し、諸機能を維持・回復・向上することで成長の阻害要因を最小化する
<b>基本的方向2</b> <b>生物多様性の恵みに支えられた魅力の発信とまちの活性化</b>	④豊かな食を支える生物多様性の重要性を理解し、地産地消によるフードマイレージの最小化を図ることで食文化を守り、食のブランド化を推進する
	⑤自然資源へのアクセス性を活かし、持続可能な資源の利用による継続的な環境教育や観光交流を実現し、環境先進都市としてまちを活性化する
	⑥都市・産業構造を活かした先進的な生物多様性保全を進め、そのノウハウを内外に発信することで人や知見を集積する
<b>基本的方向3</b> <b>市域外地域から享受される生物多様性の恵みへの理解の育成と広域連携による安定化</b>	⑦大学・研究機関等と連携し、生物多様性の恵みの安定化・向上技術を内外に発信し、新たな生物多様性産業を創出する
	⑧生物多様性保全の取組を通じて、周辺市町村・県・国との連携の必要性を理解し、強化するとともに、アジア・太平洋地域との協力関係を構築する
	⑨世界に開かれる日本の玄関口として、市民の安全と生物の多様性を国や県との連携・協力によって守る
<b>基本的方向4</b> <b>生物多様性の恵みによって育まれた地域固有の文化の継承・発展による誇りある心の育成</b>	⑩流域圏や周辺の市町村との連携によるバランスの取れた水・土・栄養塩などの循環回復の重要性を理解し、成長基盤を将来にわたって安定させる
	⑪都市生活が都市周辺の生物多様性の恵みに支えられていることを理解し、一次産業の保全・活性化と資源供給地域における生物多様性保全への積極的働きかけによる資源の安定的な供給を永続的に確保する
	⑫生活の中で維持・継承されている文化の大切さを理解し、これを継承・発展させ、新たな魅力として確立し、地域に対する市民の愛着と誇りの心を育成する